



証券コード 7561 東証第一部

2022年3月期 第2四半期 決算説明会資料

株式会社ハークスレイ



2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用 収益の認識方法を変更。

		変更前	変更後
店舗委託事業	業務委託収入にかかる収益認識	総額で収益を認識	純額で収益を認識
持ち帰り弁当事業	収益認識	加盟契約開始の時点で収益を計上	加盟契約期間にわたり収益を認識
	商品販売時に他社が運営するポイントを顧客に付与した場合	商品代とともに収益認識し、当該他社に支払うポイント相当額を販売費及び一般管理費として計上	第三者のために回収する額として、控除した純額を収益認識

2022年3月期 第2四半期決算概要	P. 4
2022年3月期 業績予想について	P.21
(ご参考資料)	
サステナビリティへの取組み	P.23
中期経営計画	P.28

2022年3月期 第2四半期 決算概要

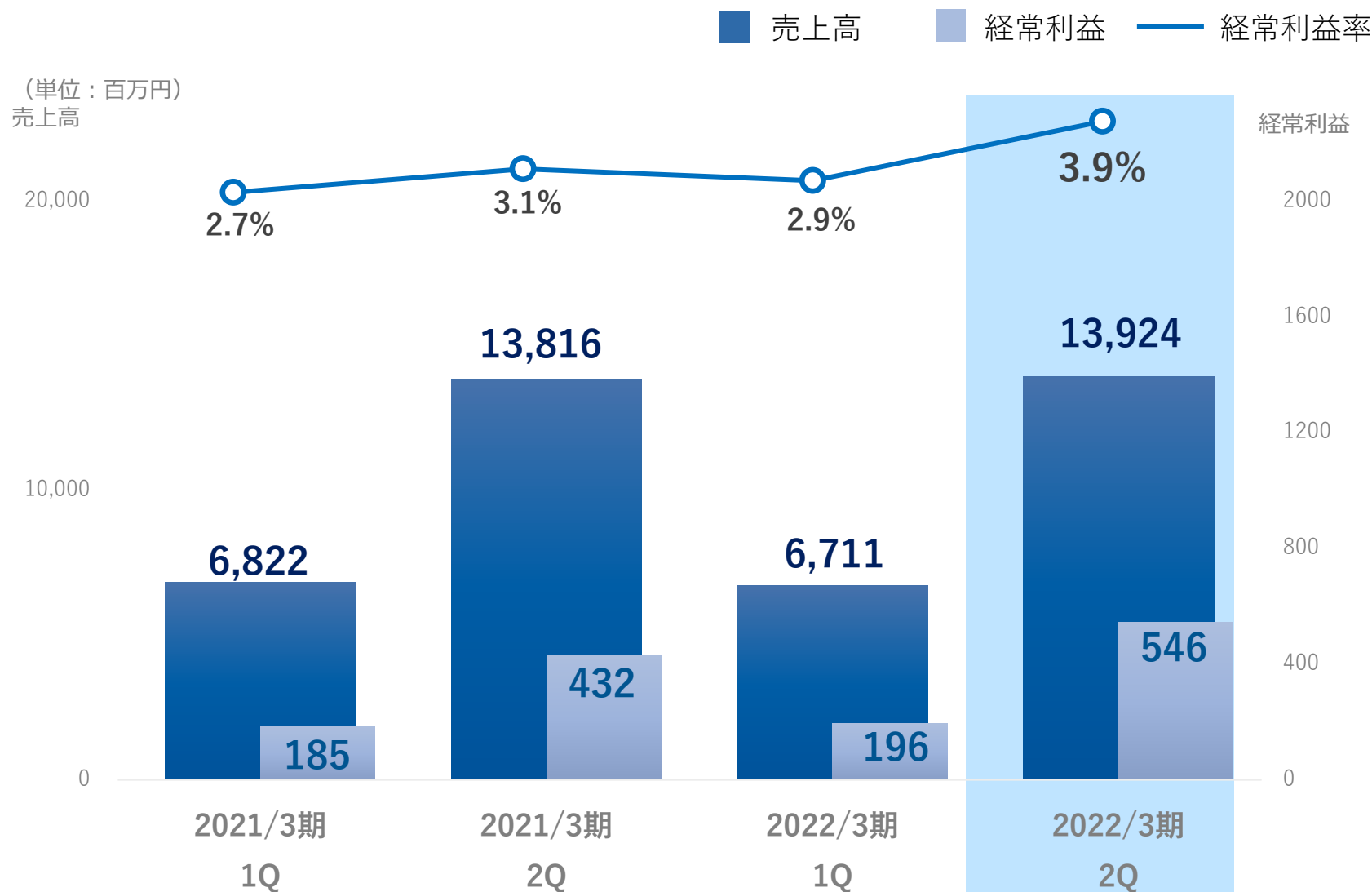


コロナ収束後を見据えた先行投資を積極的に実行するも 前年同期比 増収大幅増益

(単位：百万円)	2021/3期 2Q		2022/3期 2Q		前年 同期比
	金額	売上比率	金額	売上比率	率
売 上 高	13,816		13,924	—	100.8%
売上原価	8,946	64.8%	8,822	63.4%	98.6%
売上総利益	4,870	35.2%	5,101	36.6%	104.7%
販管費	4,630	33.5%	4,787	34.4%	103.4%
営業利益	239	1.7%	314	2.3%	131.4%
経常利益	432	3.1%	546	3.9%	126.4%
税金等調整前 四半期純利益	389	2.8%	516	3.7%	132.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	229	1.7%	347	2.5%	151.5%

※「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。
なお、前年四半期及び前連結会計年度については遡及適用後の数値となっております。

経常利益率は第2四半期において3.9%まで回復



店舗委託事業は前年同期比売上高はほぼ横ばい、増益 店舗管理事業は増収大幅増益

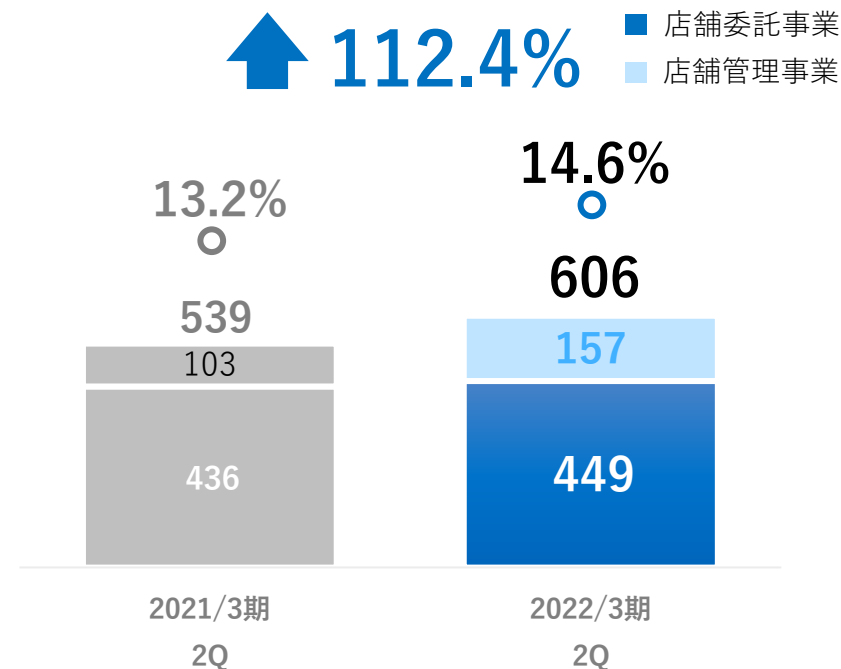
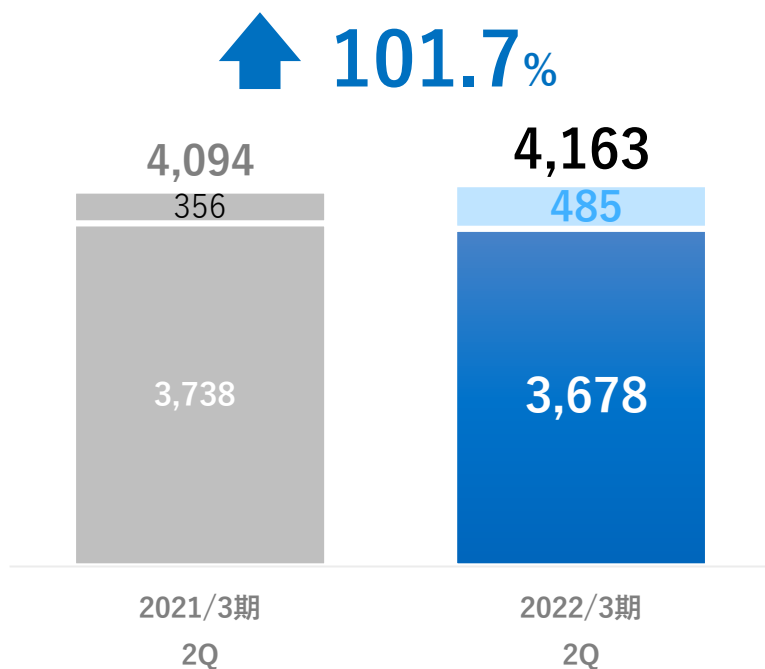
- 店舗委託事業
 - 度重なる緊急事態宣言の影響を受けるも売上高はほぼ前年同期並みを維持
 - 空店舗の抑制を強化し、事業の更なる健全化を図り、利益率改善
 - 戦略的に好立地の物件を入手し、委託店舗の出店サポートのための準備をするとともに、キャッシュ・フロー重視の経営により、健全な経営を目指す
- 店舗管理事業
 - 資産価値を維持向上するための運用提案、ビルの管理関連サービスの積極的な展開、様々な業態のテナントオーナー向けのリーシングマネジメントサービスなどを確実に実施

売上高

(百万円/%)

セグメント利益・率

(百万円/%)

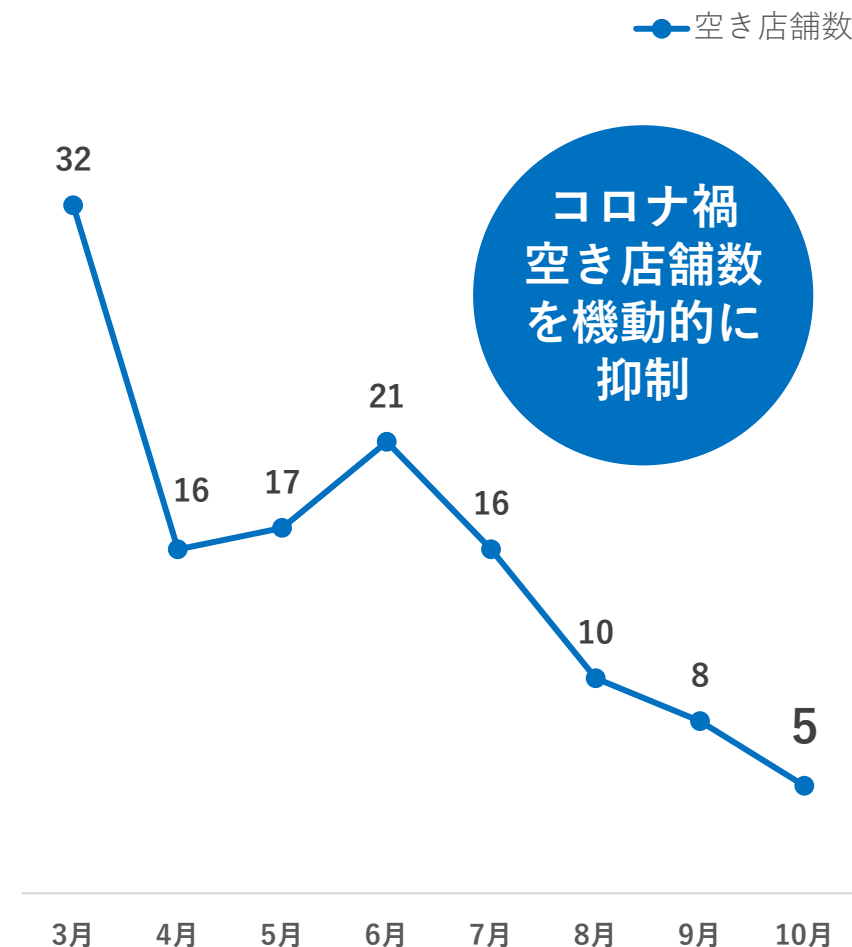


コロナ禍でも優良店舗が開店する一方、空き店舗数を最小限に抑制

開店店舗一覧 (4月~9月末迄)

開店日	地域	店名
4月15日	大阪府	1429餃子
4月21日	東京都	クリスピーチキンアンドトマト 千歳烏山店
4月22日	東京都	京風だしとグリル酒場 Dejiル
4月23日	神奈川県	横浜家系志田家 鹿島田店
4月24日	神奈川県	dapaidang105 横浜野毛店
4月28日	東京都	麺屋 こころ 上野店
5月1日	大阪府	EMANON アザレア梅田店
5月21日	東京都	がっつり！スパゲッティぱすたや 阿佐ヶ谷店
5月28日	神奈川県	から揚げの本田商店 新杉田店
6月1日	東京都	八兵衛 日本橋店
6月6日	東京都	餃子酒場 赤坂見附店
6月7日	東京都	桐梓林
6月10日	東京都	銀座 六覺燈 神楽坂店
6月16日	東京都	豚大門市場 渋谷 道玄坂店
6月21日	東京都	渋谷 半地下酒場
6月28日	東京都	undergroundクラフトビール赤羽店
7月1日	東京都	フーメン (Feumen)
7月2日	東京都	濃厚豚骨ラーメン 濱虎家 成増店
7月5日	東京都	楽串 新小岩 鉢鉢鶏専門店
7月6日	愛知県	糖罪薫・營養三明治・こびとぱん
9月30日	埼玉県	肉屋食堂 たけうち 蕨店

空き店舗数 (3月~10月末迄)



業界唯一“駅前店舗不動産に特化”した不動産ファンド”を推し進め 店舗不動産に特化したREIT組成を目指す

Step1

駅前特化した
不動産
私募ファンド

Step2

日本初の
“駅前店舗不動産特
化型” REIT



事業認知度向上を目的に、ビル名称を変更

店舗不動産ファンド事業のさらなる拡大のため、9月1日付でTRNグループが保有または運営する「Box`R新橋」「ジェイリート大宮」など8つのビルにおいて「TRN」を冠するビル名に変更。

店舗流通ネットの不動産ファンド事業の特長

- ① 増加している店舗ビルの売却ニーズに柔軟に対応可能
- ② 20年間のリーシング実績とノウハウにより、コロナ禍でも攻めの物件取得が可能

コロナ禍においても、高い数字を維持

稼働率 95%

後継テナント
後付率98.5%

旧名称		新名称
ROCOビル	▶	TRN立川
ジェイリート大宮	▶	TRN大宮
Box`R 新橋	▶	TRN新橋
山二ビル	▶	TRN川越
所沢MKビル	▶	TRN所沢
小川町3丁目ビル	▶	TRN神保町
鶴屋町ルポビル	▶	TRN鶴屋町
明大前ビル	▶	TRN明大前

新たなランドマーク創出へ本厚木駅前ビル取得、リーシングも好調

本厚木の商業施設を取得
より地域の生活に根ざした商業ビルへ

交通利便性が高く、住宅都市としても人気が高い本厚木駅の駅前ロータリーに面する好立地商業ビルを取得。自然に囲まれた観光都市、企業の研究施設や工場が所在する工業都市としての一面もあり、年間を通してファミリー・学生・観光客・ビジネスマンで賑わう。



本物件前から見る本厚木駅前広場

収益力の高い物件として期待
駅前店舗不動産ファンドに組み入れ
2023年秋頃の竣工を目指す

リーシング

飲食ビルを明るく商業ビルへ、美容室を誘致

地下1階から7階まで飲食テナントが入居する飲食ビルから、コロナ禍を見据えて新たな業態を誘致。



東京都新宿区『TRN新宿』

これまで3,500店以上の出店支援実績と情報力に基づき、様々な業種・業態に適したリーシングが可能。不動産の収益と資産価値の最大化を図る

『ninapos®』に ROX の需要予測 AI システム導入開発開始

食品ロス・廃棄食品の削減・販売機会損失の悩みを解決

2021年3月1日に当社のグループ会社となった株式会社アニーが株式会社 ROXと協業し、アニーが開発・提供する製菓・製パン業界向け顧客管理 POS レジシステム『ninapos®』の新機能として、ROXが開発・提供する需要予測 AI を導入することに合意し、開発プロジェクトを開始。

annie ninapos®

製菓・製パン業界に
特化したPOSレジシ
ステム。現在全国
850店舗以上で利用



ROX
Data Analysis Technology

 売上・客数予測 AI

ROX社の需要予測AIシステムを導入

過去の客数や天気予報データなどを加味し、独自に開発したアルゴリズムで45日先までの客数や売上を高精度に予測可能に

食品ロス削減のためのAI

試してみたいくなる
3つのポイント

- Point 1 / ☒ 45日先までの客数を高精度に予測
- Point 2 / ☒ 商品の作り過ぎが減り
食品ロスを **55%** 削減! など効果は絶大
- Point 3 / ☒ スマホがパソコンがあればすぐ使える

こんなお店で活躍中

- パン屋
- ケーキ屋
- 和菓子屋
- ビュッフェレストラン
- 社員食堂
- スーパーの惣菜・生鮮食品売り場

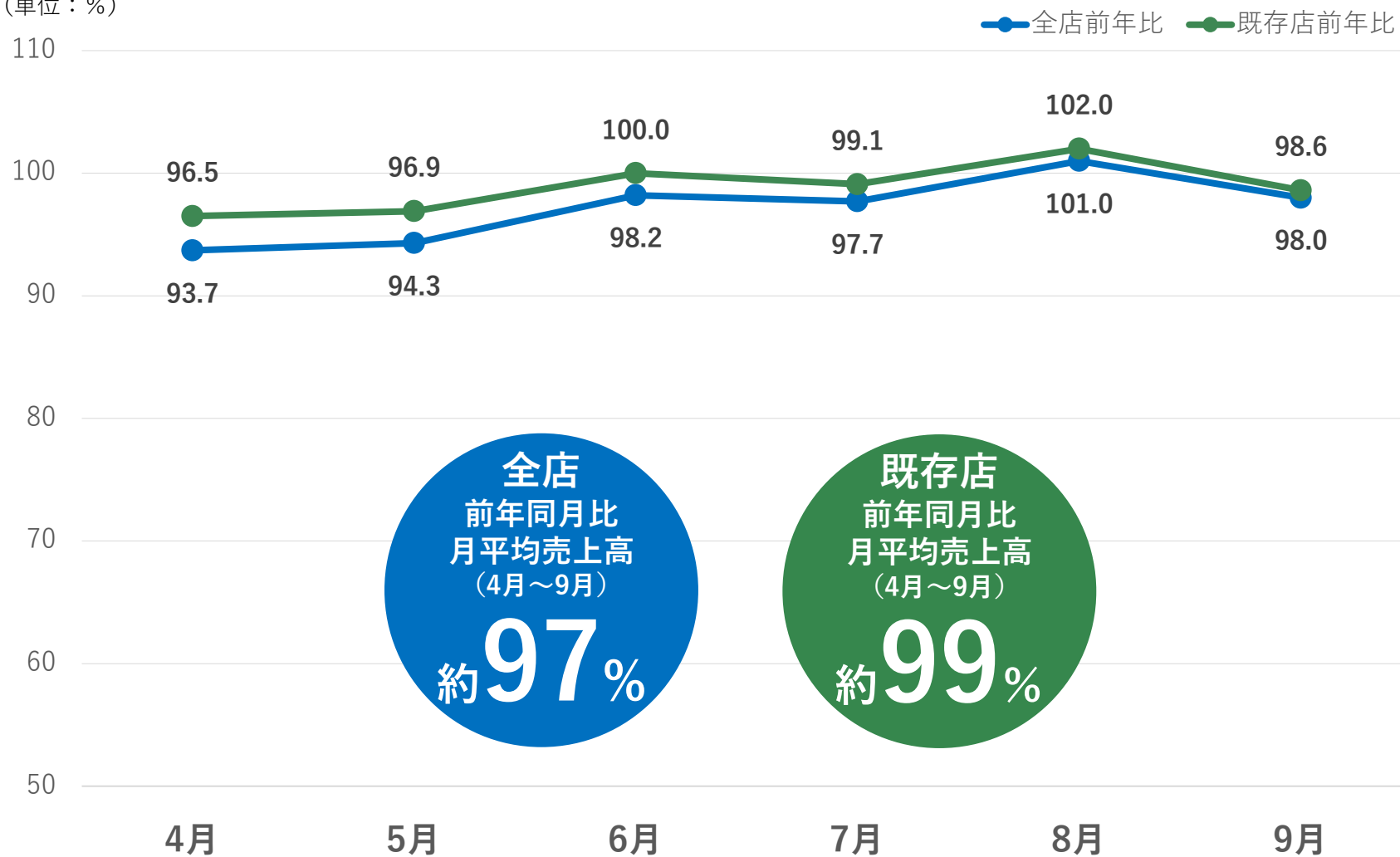
各種キャンペーンを積極的に実施するも 郊外レジャーに消費が流れた影響を受ける

	2021/3期 2Q	2022/3期 2Q	前年同期比
	金額	金額	
（単位：百万円）			
売上高	8,038	7,742	96.3%
セグメント利益 （利益率）	504 (6.3%)	487 (6.3%)	96.6%

- 7月～9月にかけて、豚カルビシリーズおよび釜揚げしらす丼、牛カルビ丼、黒唐揚げ＆スタミナ炒め弁当、照り焼チキン重の発売等、積極的に新商品を投入。また野菜中心のプレートシリーズを大幅にリニューアルし、ラインナップを拡大
- 僕のヒーローアカデミア映画第3弾とコラボレーション「夏のPLUS ULTRAキャンペーン」を開催
- 店舗数は、前年同期比では減少であるが、前期末と比較すると増加傾向
- 利益において一部原材料の高騰の影響を受ける

持ち帰り弁当事業 月別の売上高推移

(単位：%)





(4月～9月)

+ 8店舗
オープン



WASH & SHINE!
COIN LAUNDRY

(4月～9月)

+ 7店舗
オープン

西日本を中心に店舗数を拡大。
ほっかほっか亭とWash&Shineの
複合店舗も続々出店。

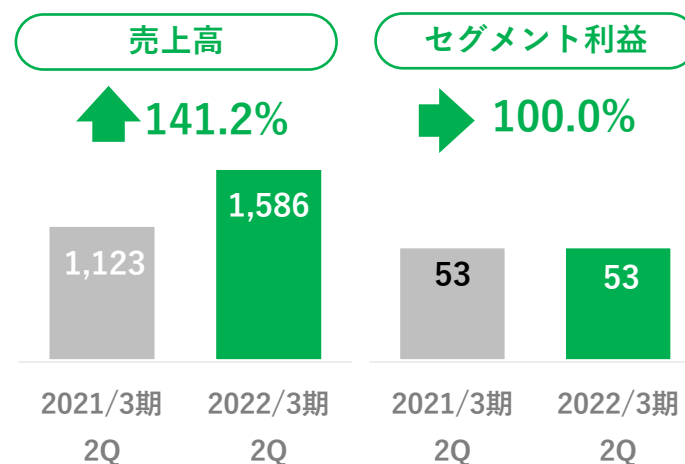


物流食品加工事業は様々な食品のマーケットにおいて 多くのユーザー、ベンダーから高い評価を得て 順調に業績を拡大

物流食品 加工事業

前年同期比
大幅増収、利益ほぼ横ばい

- カミッサリー第2工場の生産効率向上を目指し、非加熱製品、加熱処理設備を活用した加熱製品の開発にも注力



仕出料理事業

売上高 314百万円 セグメント損失 △36百万円

- 新型コロナウイルス感染症に伴う、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等による影響が大きく、既存の仕出サービス、ケータリングサービスともに売上高は低調に推移

その他事業

売上高 118百万円 セグメント利益 25百万円

- 主力のパーティー用品レンタル事業も新型コロナウイルスの影響を受けるも、ワクチン普及による下半期の市場回復によって、黒字化を実現できるものと見込む

※フレッシュベーカーリー事業については、2021年2月に事業譲渡しております。

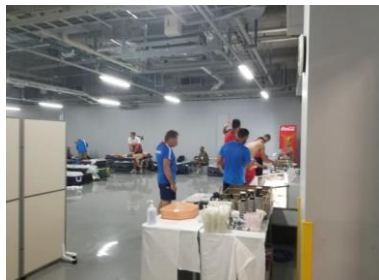
大規模スポーツイベントにて食の提供

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会にて、オリンピックスタジアムをはじめとする10競技場に設置されたラウンジでビュッフェ形式の温かいお食事を提供

オリンピック会場でのケータリングの様子



▲たくさんのお食事メニューが会場に並びました



▲世界中から集結したアスリートの皆様にも好評でした

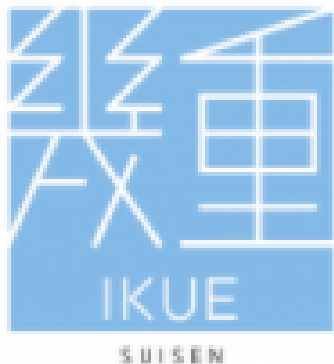
JFA創立100周年 表彰受領



日本サッカー協会（JFA）の100周年事業コンセプト「過去への感謝、未来への決意」の具現化として、サッカーの発展に貢献したその活動を表す表彰を受賞しました。

新ブランド「幾重」、渋谷東急フードショーに出店

渋谷東急フードショーのしぶちかデリゾーンへスイセン初の百貨店常設店舗「幾重」が出店しました。



『幾重』とは技術と伝統の味わいが何重にも積み重なって、さらに革新を続ける店であることを意とします。

この信念を持った職人達が、フラッグシップの懐石弁当「IKUE」の他、拘りの海苔弁当を殊に現代の新たな和食文化を提案します。

各種メディアにて取り上げられました

2021年8月10日付「東京新聞」

2021年8月13日付「食品新聞」



フジテレビ
「もしもツアーズ」



“味珠（あじたま）メンチカツ”を
ご紹介いただきました。



渋谷東急フードショー店舗

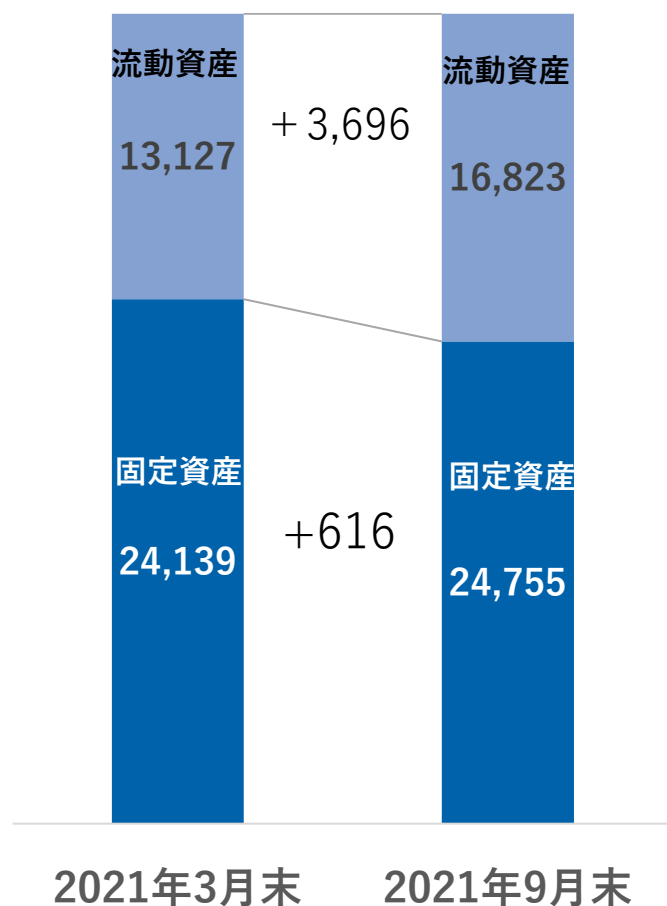
		実績	
		2020年4月1日～ 2021年3月末日	2021年4月1日～ 2021年9月末日
店舗委託事業	新規委託	166	76
	委託終了	248	71
	店舗数	768	773
持ち帰り弁当事業	出店	42	37
	退店	101	23
	店舗数	901	915
グループ全店	出店/新規委託	208	113
	退店/委託終了	349	94
	店舗数	1,669	1,688

※各店舗数は3月、9月末日の店舗数を記載

資産の部

(単位：百万円)

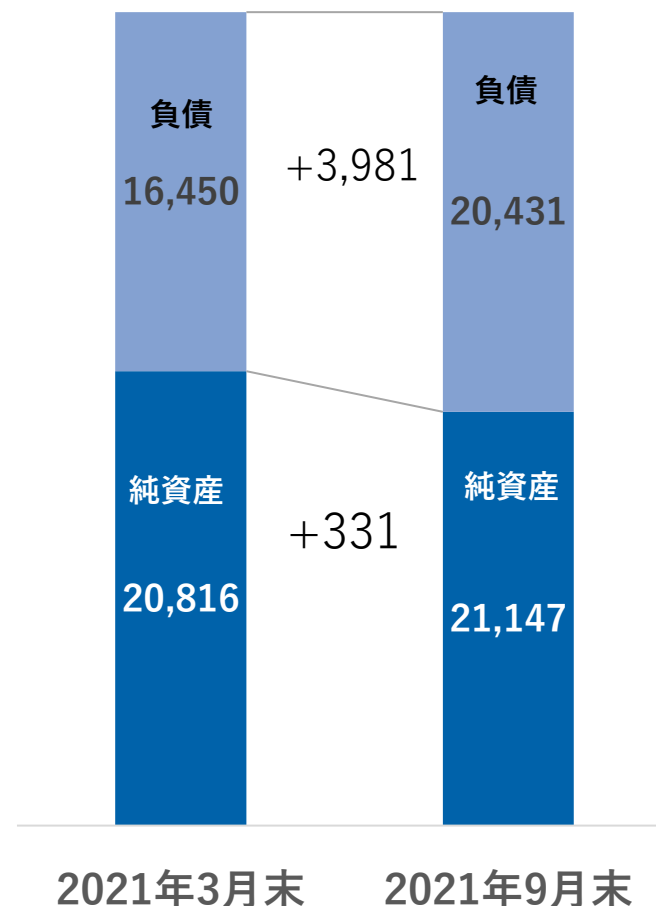
- 現預金の増加、不動産ファンド事業における棚卸資産である販売用不動産の購入や投資有価証券が増加



負債・資本の部

(単位：百万円)

- 負債：主に借入金が増加
- 純資産：主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上



キャッシュ・フローの状況

2021/3期

2022/3期
2Q

(単位：百万円)

金額

金額

増減

内容

営業活動による
キャッシュ・フロー

△2,149

△1,022

主に、棚卸資産である販売用不動産の購入23億61百万円、税金等調整前四半期純利益5億16百万円、減価償却費4億30百万円

投資活動による
キャッシュ・フロー

△2,195

△1,058

主に、有形固定資産の取得による支出5億81百万円、投資有価証券の購入8億46百万円

財務活動による
キャッシュ・フロー

1,898

3,476

主に、借入金による収入42億40百万円、借入金の返済による支出7億18百万円

現金及び現金同等物の
四半期末残高

5,108

6,503

2022年3月期 業績予想について



ワクチン接種率が高まり、新型コロナウイルス感染拡大の抑制が進み、通期業績予想は達成の見込み

(単位：百万円)	2021/3期 実績		2022/3期 予想		前期比
	金額	売上比率	金額	売上比率	
売 上 高	27,593	—	30,000	—	108.7%
営 業 利 益	498	1.8%	1,100	3.7%	220.9%
経 常 利 益	923	3.3%	1,500	5.0%	162.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	81	0.3%	1,000	3.3%	1,234.6%

※「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、上記の業績予想は当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

APPENDIX サステナビリティへの取り組み



ハークスレイグループのSDGsに対する考え方



現在気候変動をはじめとした様々な環境問題が国を超えて拡大しております。私たちハークスレイグループでは、かねてより持ち帰り弁当事業や店舗委託事業等の省廃棄・循環型ビジネスを展開しており、これらの環境問題に対して真摯に向き合うことは、私たちの責任であると考えております。またこれらの問題解決そのものが成長の原動力となりえると判断し、この度はSDGsの取組みに賛同・参加することといたしました。

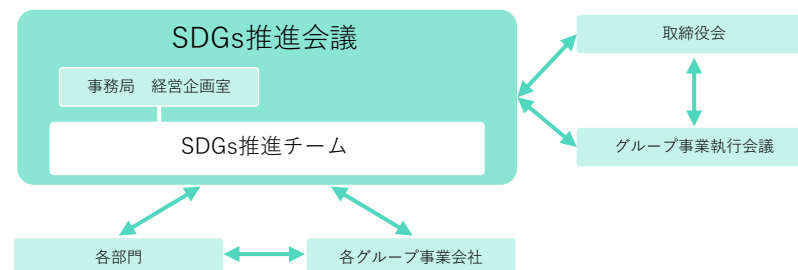


ハークスレイグループの事業そのものが省廃棄・循環型ビジネスです
 私たちはSDGsの取組みに賛同し、引き続きグループ全体で循環型社会追求をしてまいります

サステナビリティ推進体制

ハークスレイグループでは、SDGs重点テーマにフォーカスした施策の立案や目標達成状況のモニタリング、社内外のコミュニケーションについて、当社のSDGs推進会議を中心に議論し、取組みを推進しています。

これにより、グループ各社がそれぞれの業務のなかで主体的にSDGs推進に取り組むとともに、同委員会でのグループ横断的な方針や施策などの議論を通じて推進体制を強化しています。



SDGs17目標に対応する取組みリストアップ

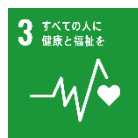
SDGs17目標と弊社グループの取組み



- ・TRNジョブトレーニングセンター



- ・食材を社会福祉法人に寄付



- ・有害物質アスベスト対策
- ・差別、ハラスメント撲滅の相談窓口
- ・地域スポーツ支援



- ・TRNジョブトレーニングセンター



- ・女性が働きやすい環境、組織、内規
- ・同一労働 同一賃金を達成
- ・差別、ハラスメント撲滅の相談窓口



- ・米のとぎ汁の汚染物質抑制
- ・界面活性剤を含まない排水



- ・木製スプーンの導入
- ・バイオマスポリエチレン使用レジ袋導入
- ・レンタル事業
- ・社内資料のペーパーレス化
- ・MAPKA（マプカ）容器導入



- ・女性が働きやすい環境、組織、内規
- ・同一労働 同一賃金を達成
- ・多様なワークスタイルの制度化



- ・老朽化した既存ビルの再生
- ・再開発による街の活性化



- ・同一労働 同一賃金を達成



- ・TRN有害物質アスベスト対策
- ・老朽化した既存ビルの再生
- ・産業廃棄物の適正アセスメント処理
- ・行政との災害時協定



- ・産業廃棄物の適正アセスメント処理
- ・木製スプーンの導入
- ・バイオマスポリエチレン使用レジ袋導入
- ・端材等の従業員向け総菜等への流用



- ・太陽光発電システム導入
- ・新調理器具導入でガス消費量を削減
- ・バイオマスポリエチレン使用レジ袋導入
- ・MAPKA（マプカ）容器導入
- ・箸袋等を再生紙製へ切り替え



- ・端材等の従業員向け総菜等への流用
- ・界面活性剤を含まない排水
- ・バイオーダーによる食料ロスの軽減
- ・ゴミ袋の環境対応品（再資源化）導入



- ・端材等の従業員向け総菜等への流用
- ・社内資料のペーパーレス化
- ・バイオーダーによる食料ロスの軽減
- ・箸袋等を再生紙製へ切り替え



- ・コーポレートガバナンス



- ・行政との災害時協定
- ・ほっかビジョン
- ・レンタル事業



SDGsマテリアリティの基本コンセプト「人・社会・環境にやさしい企業運営」

重点テーマ1：豊かな生活の基盤となる街づくり <社会にやさしい企業運営>



ハークスレイグループは地域社会の一員としてインフラの一部を担う責任を追及してまいります。地域の皆様が快適に街づくりに貢献し、社会から必要とされる企業を目指します。

- ビル再生事業における有害物質アスベストの対策。
- ビルの内外装工事に伴う産業廃棄物を、適正なアセスメントによる処理を行う事により、都市の環境上の悪影響を軽減。
- 行政との災害時協定を通して、災害時における食料供給インフラとして自然災害に対するレジリエンスを向上。
- 自治体・地域社会との連携、地域イベントへの積極参加、協力により、地域の活性化に貢献。
- 食材寄付や食育を通して地域社会へ貢献。

重点テーマ2：陸・海の豊かさを維持する活動 <環境にやさしい企業運営>



ハークスレイグループは、未来を担う世界の子供たちが、陸・海の豊かさを永久的に享受できるように、我々が出来る事を積み重ねてまいります。

- マブカ容器や木製スプーン導入及びバイオマスポリエチレン使用レジ袋による環境負荷低減。
- 太陽光発電システム導入により、CO2排出量削減。
- バイオーダーの持ち帰り弁当事業の運営による食品廃棄削減、社会インフラとしての地域貢献。
- レンタル事業を通じて、限りある資源の有効利用と廃棄物の削減を推進し、地球環境と社会の安心安全に貢献。
- 無洗米使用による、節水。米のとぎ汁の汚濁物質抑制、とぎ汁の下水処理にかかるCO2排出の削減。

重点テーマ3：ワークライフバランスとダイバーシティの充実 <人にやさしい企業運営>



ハークスレイグループは生活密着企業として、互いの多様性を認め、個性を尊重し合った上で、仕事においても各個人が持つ能力を発揮できる職場づくりを推進します。また、ご家族・ご友人を含めたあらゆる人が笑顔になるようなグループとなり、個人の成長や生産性の向上を実現させる事で、企業としての成長を続けます

- 女性が働きやすい環境作り。キャリア形成、ステップアップを助ける環境の確保（育休制度、変則勤務制度の充実と利用促進）。
- 差別とハラスメントの撲滅を社内内規に明記し活動を促進。社内相談窓口の設置。
- テレワーク、時差出勤、時短勤務等、多様なワークスタイルの制度化と利用促進。



News Release

2021年10月28日
株式会社 ハークスレイ
株式会社ほっかほっか亭総本部

岡山市との「災害救助物資の供給等に関する協定書」

締結のお知らせ

当社、株式会社ハークスレイ及び、株式会社ほっかほっか亭総本部(2021年10月20日効力発生の会社吸収分割により、株式会社ハークスレイの店舗運営事業、及びそれに付帯する業務全般を株式会社ほっかほっか亭総本部に承継しております)は、お持ち帰り弁当事業のバイオニアである「ほっかほっか亭」を展開し、「わたしの街の台所」をスローガンに、皆さまにづくりたてで心のこもったあたたかいお弁当を食べていただくため、様々な試みを行っております。

このたび、株式会社ハークスレイは、2021年10月8日、岡山市と災害救助物資の供給等に関する協定を締結いたしました。本協定は、岡山市内において災害が発生、または発生する恐れがあり、物資を調達する必要があると認められる場合において、岡山市は当社に対し、弁当類を中心とした食料品および物資の供給を求めることができ、当該要請があった場合、当社は当該要請に可能な限り協力することを定めるものです。

当社は本協定によって、岡山市の皆さまに一層の安心をお届けするとともに、これからも「わたしの街の台所」として、地域に密着した活動を続けてまいります。

【該当する SDGs 目標】



【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社ほっかほっか亭総本部 販売促進部 担当: 松本(まつもと)
TEL 06-6376-8014 FAX 06-6376-8135 URL <https://www.hokkahokka-teij.jp/>



News Release

2021年11月16日
ほっかほっか亭総本部

ほっかほっか亭 環境保護への取り組み —箸袋・木製スプーン袋・「みそ汁」カップ等をプラスチックから紙へ—

持ち帰り弁当事業のバイオニア「ほっかほっか亭」では、「わたしの街の台所」をスローガンに、皆さまにづくりたてで、心のこもったあたたかいお弁当を食べていただくため、様々な試みを行っています。

当社は環境保護への取り組みとして、お弁当と一緒にご提供している箸や木製スプーンの袋ならびに、「みそ汁」の容器^{※1}について、従来のプラスチック製から紙製へと随時変更を行っております^{※2}。箸は一部メニューを除き全てのお弁当にセットしご提供しており、木製スプーンは「オリジナルカレー」や季節限定の「中華丼」、お子さま向けのお弁当にセットしご提供しております。「みそ汁」の容器は「手づくりみそ汁」や「具だくさん汁」など全国的に販売中の汁物容器として使用しております。これら袋及びカップを従来のプラスチック製から紙製に変更すると、年間20トン程度のプラスチックを削減できると試算しております。

プラスチック廃棄物による海洋汚染は国際的に対処すべき喫緊の課題です。ほっかほっか亭ではこれまでも、木製スプーンの導入や植物由来原料(バイオマス)が含まれたレジ袋^{※3}の導入、MAPKA[®]容器^{※4}を使用したメニューの発売等を通して、プラスチックの全体量を削減することに取り組んでまいりました。ほっかほっか亭では今後も、海洋環境保全だけでなく、様々な環境保護への取り組みを続けてまいります。

- ※1 「みそ汁」の容器について、今回紙製に変更するのはカップ部分であり、蓋部分は従来通りのプラスチック製となります。
- ※2 北海道、秋田県、宮城県、福島県、山梨県、関東地方、東海・北陸地方、近畿地方(淡路島のぞく)、中国地方、九州地方の各ほっかほっか亭店舗を対象に「みそ汁」容器は10月下旬から、木製スプーン袋は11月下旬、箸袋は12月初旬から随時変更していきます。
- ※3 MAPKA[®]容器とは、紙パウダーを主原料とした地球環境に優しい素材を使用した食品容器で、完全プラスチック容器と比較するとCO2排出量を41%削減が可能です。

【該当する SDGs 目標】



【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社ほっかほっか亭総本部 販売促進部 担当: 百岳(ひやくたけ)
TEL 06-6376-8014 FAX 06-6376-8135 URL <https://www.hokkahokka-teij.jp/>

APPENDIX 中期経営計画



中期計画 VISION 「自己変革型企業群」

不透明さを増す未来において新しい価値創造を続けていくために、
ハークスレイグループは環境適応能力と成長性を兼ね備えた
事業連合体「自己変革型企業群」を目指します



VISION 「自己変革型企业群」

1

既存事業の利益率向上

2

成長事業に経営資源を積極投下

3

グループインと事業間連携による新規事業創出

4

グループ拡大を支える人材育成と組織確立

中期経営計画 数値目標

※ご留意事項 中計の数値は「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）等適用前の数値となっております。ただし、営業利益以降の数値に関しては適用後も変更はございません。

	2021/3期 実績	新中期計画 Resilient2021施行	新中期計画後 2024/3期
(単位：百万円)			
売上高 [※]	35,126	× 145.6%	51,149
営業利益	400	+ 2,068	2,468
営業利益率	1.1%	+ 3.7%	4.8%
当期純利益	70	+ 1,977	2,047
ROA	0.2%	+ 3.8%	4.0%
ROE	0.3%	+ 7.9%	8.3%
D/Eレシオ	19.5%	+ 13.9%	33.4%

株式会社ハークスレイ 経営企画室

**IRに関する
お問い合わせ先**

電 話：06-6376-8088（代表）

e-mail：ir@hurxley.co.jp

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。